

令和八年 睦月 780号

よつぎ ななかた

目次

年頭挨拶

宮司

福岡県知事

宗像市長

大注連縄奉納・お知らせ

神宝館だより・みどころ

宗像大社歌会詠草

御造営奉賛者御芳名

7 7 6 5 4 3 2

よつぎ 沖ノ島本土から南へ

約一キロの海上に位置する無人島である小屋島、この島は「ヒメクロウミツバメ」という希少な鳥の繁殖地となっている。

全長は約二十センチで、海鳥としては日本最小種、環境省レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類に区分されている貴重な海鳥である。初夏に小屋島に飛来し、夏に子育てを行う渡り鳥であるが非繁殖期の詳しい生態についてはこれまで解明されていなかった▼今回、研究グループが鳥に追跡機器を取り付け調査・追跡を行った結果、秋に小屋島を出発後、東南アジアのスンダ列島付近まで南下、その後西へ北西に進み、インド洋のアラビア海に到達した。日本にくる渡り鳥の多くは、南北に長い渡りが特徴であるが、東アジアで繁殖する海鳥で大規模な東西移動が明らかになったのは初である▼この貴重な「ヒメクロウミツバメ」は過去、外来種であるドブネズミが侵入し繁殖個体の大多数が捕食され壊滅状態となった。原因は釣り人の餌の残骸等、人為的要因が考えられるが、この貴重な生態を今後も継続していけるよう島の信仰と共に、守り伝えていかなければならない。

(中)



造営事業 9月末に整備を終えた第一駐車場



8月 大雨後の中津宮参道



宗像大社宮司
葦津 敬之

新年を迎えるにあたり、皇室の弥栄と国家の安寧を心よりお祈り申し上げます。

平成二十五年より始まりました「平成ノ大造営」も今年で十四年目を迎えます。この間、辺津宮社殿、第二宮第三宮、勅使館、沖津宮社殿、辺津宮末社、祈願殿、清明殿、参拝者休憩所、大型倉庫、第一駐車場等の造営を執り行いましたが、未だ多くの建物等があり、予定していた九年を過ぎてもなお造営が続いています。氏子崇敬者の皆様におかれましては、引き続き、深い御理解と御協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

昨年も全国各地で自然災害が相次ぎ、尊い命と日常の暮らしが脅かされる一年となりました。八月には線状降水帯によって、全国各所で河川の氾濫や土砂災害

が発生。宗像地域においても記録的な豪雨で土砂崩れ等が起り、多くの方々が不安と困難の中での生活を余儀なくされました。また、この影響によって中津宮（大島）参道の一部が崩落し、現在、応急措置が施されてはいますが、今年中には文化庁の指導によって修復できることとなっています。

線状降水帯の原因とされる海水温度の上昇は、年々大変厳しい状況下であり、この影響で漁獲は激減し、海そのものが大きく変わりつつあります。地球の七割を占める海の変化は、あらゆる環境に影響を及ぼすことから、今後は早急なる措置が必要です。憲政史上初の女性首相が誕生し、首相は混迷する国際社会において難しい舵取りをされています。福岡においても幕末から

明治維新の激動の時代に特筆すべき女傑がいました。野村望東尼（一八〇六―一八六七）と高場乱（一八三一―一八九二）です。野村は「平尾山荘」（福岡市中央区平尾）を提供し、高杉晋作たちを支え、高場は「興志塾」（現在の博多駅近く）を開き、頭山満たちを育てたとされています。この二人は乱世の時代に名だたる勤王の志士たちを援け、有能な人材を輩出しています。日本は男尊女卑のように言われますが、歴史を顧みると、むしろ危機的な状況の中で女性の活躍が散見されます。

結びに、令和八年が皆様にとりまして穏やかで希望に満ち、実り多き一年となりますことを衷心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶いたします。



カードラリー



金銅製矛鞘三次元モデル



福岡県知事
服部 誠太郎

新年あけましておめでとうございませう。

宗像大社におかれましては、日頃から世界遺産「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の保存と活用に関心に取り組まれています。葦津宮司をはじめ、関係者の皆さまの熱意とご尽力に深く敬意を表します。

さて、昨年は、福岡に世界的なスタートアップ支援機関であるCOC(ケンブリッジイノベーションセンター)のアジア二か所目の拠点「CIC Fukuoka」やインド総領事館が開設され、福岡が世界との結びつきを強め、チャレンジしていくための架け橋となつていきます。

福岡県は、古来より大陸との交流の中心地であり、海外の文化や知識、技術、人材が入ってきたことが、地域の元氣や繁栄につながってきました。そして、交流の

中継点として、航海の安全と交流の成功を祈る祭祀が行われていたのが沖ノ島です。

昨年6月、沖ノ島祭祀遺跡出土の奉獻品のX線撮影による解析で、国宝「金銅製矛鞘」の内部に残る鉄矛に象嵌が確認されました。この新発見は、遺産群の新たな魅力として国内外から大きな注目を集めています。

また、遺産群の魅力をより広く発信するため、初めて県内外の関連施設や他の世界遺産とも連携した「海と神祕のカードラリー二〇二五」を開催し、広域的な誘客と周遊促進を図つてまいりました。さらに、持続可能な観光開発に向けた調査研究や「海の道むなかつた館の展示更新事業」も進め、本遺産群の歴史と文化を分かりやすく発信するとともに、宗像地域のより一層の活性化に繋がってまいりました。

宗像大社をはじめとするこの素晴らしい遺産群は、千五百年以上の長きにわたり先人から受け継がれてきた、人類が共有すべき宝です。この宝を、美しい海や環境と共に確実に未来の世代に引き継いでいくべく、地域の皆さまと共に資産の保存や周辺環境の保全、本遺産群の魅力と価値のさらなる発信を行つてまいります。

今年は午年です。本年も、馬が疾走するがごとく、様々な施策をスピード感をもって実行し、力強く前進・飛躍してまいります。そして、福岡県を九州・日本の発展を牽引する「雄県」に、誰もが笑顔で暮らせるふるさとにしていくという強い志をもち、全力を尽くしてまいります。

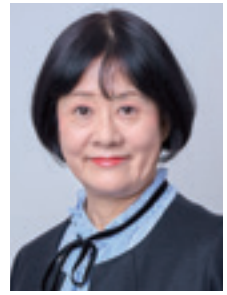
新年が皆さまにとって、素晴らしい一年となりますよう心からお祈りいたします。



宗像国際環境会議 開会宣言



被災地視察



宗像市長
伊豆 美沙子

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平素より宗像市政への深いご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年の夏、宗像市は線状降水帯による記録的な豪雨に見舞われました。一日当たり三〇〇ミリという観測史上最大の降雨が市内各地で土砂災害や浸水を引き起こし、多くのご家庭が大きな不安の中で過ごされました。大島、地島でも甚大な被害が発生し、宗像大社中津宮では第二鳥居付近の土手が崩れるなど、自然の猛威を痛感する出来事となりました。

その際、市内外から多くの災害ボランティアの皆さまが駆けつけ、家屋の片付けから生活再建まで献身的に支援してくださいました。地域の結束の力とは何かを強く胸に刻む一年でもありました。あらためて深い敬意と

感謝を申し上げます。

同時に、この経験は気候変動への対応を待たなして進めなければならぬ現実を私たちに示しました。暮らしを支える自然環境を守り、次の世代へ確実に引き継ぐことは、今を生きる私たちの責務です。市としても、治水・防災の強化に加えて、脱炭素の推進や自然環境の保全などの取り組みを引き続き着実に進めてまいります。環境負荷の少ない社会をつくる歩みは、市民の皆さまと共に進める未来への道でもあります。こうした取り組みを進めるうえで、私たちが守るべき宗像の自然そのものが、何よりの原点です。宗像は海と山の恵みに支えられた地域であり、玄界灘の豊かな海や緑あふれる丘陵は、生活を支えるだけでなく、文化や風致を育み、人々の営みを形づくってきました。その象徴が宗像大社であり、古代から続く「自然を敬

う精神」です。

この精神こそ、互助互譲の心を育み、昨年の災害時に見られたボランティアの行動につながる宗像の大切な宝であると、改めて感じています。

世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群」が示すように、先人が守り伝えてきた歴史・文化・自然を次世代へ継承するには、一人ひとりの理解と行動が欠かせません。毎年、産学官民の第一線で活躍する先駆者が集い「海の再生事業」の取り組みを通じて地球環境について議論し、その成果を世界へ発信する「宗像国際環境会議」は、行動につながる仲間を広げる貴重な場です。市としても、こうした活動を力強く支え、さらに発展させてまいります。本年が、市民の皆さまにとっても、希望に満ちた一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

大注連縄奉納

十二月十三日(土)、大島に住む氏子らにより奉製された大注連縄が辺津宮拝殿前の幄舎に取り付けられた。奉納された大注連縄は、五十キロほどの重さで、藁の束は綺麗にテグス

(釣糸)で締め上げられており、漁師ならではの知恵と工夫がもたらされた特別な仕様である。幄舎に取り付けられた真新しい注連縄の藁の心地いい香りが、新しき年の訪れを感じさせる。
誌面を持ちまして御奉仕頂きました皆様に心より御礼申し上げます。



令和八年 初詣について

神門開閉並びに各授与所対応時間

●令和八年一月一日(木)～三日(土)

神門／守札授与所 終日開放

(※四日零時閉鎖)

祈願／朱印受付 七時～十九時

(※一日零時～十九時)

福みくじ 七時～翌三時

(※一日零時～二日三時／四日零時閉鎖予定)

●令和八年一月四日(日)

神門 六時～十九時

守札授与所 七時～十九時

祈願／朱印受付 七時～十八時

福みくじ 七時～十九時

●令和八年一月五日(月)～十二日(月・祝)

神門 六時～十七時

守札授与所 八時～十七時

祈願／朱印受付 八時～十七時

福みくじ 八時～十七時

※日により開閉時間が変わりますので、ご確認の上お参りください。また、ご参拝の状況により、変更となる場合がございますので予めご了承ください。

神宝館だより 105

八万点ノ国宝収蔵

宗像社と海(六)

宗像大宮司家は玄界灘に面する宗像地域を支配したことから「海の領主」と表されることもある。平時は浦の支配、戦時は船を用いて戦った等の記録もあり、その活動は海と密接に結びついている。そして海を渡って海外との交易を行ったことも宗像大宮司家の特徴のひとつであり、現在の宗像大社にも海外からもたらされた史料が多く伝わっている。

写真史料は建長五(一二五三)年五月三日付の「六波羅書下」。六波羅は京都に置かれた六波羅探題のことで、時の探題北条長時から奉行人に宛てられた書状である。内容は宗像社領の小呂島(福岡市西区)について、宗像大宮司氏業が筑後国御家人の三原種延とこの島に関する権利を争っていた件の判決を伝えるもので、氏業の勝訴としている。

小呂島が宗像社領となったのは平安末期



六波羅書下(宗像神社文書)

頃とされており、南北朝時代までは領有権を保持していたようである。この島は当時の南宋交易にとって重要な島であり、承天寺(福岡市博多区)を建立したことで有名な博多綱首(中国人商人)の謝国明も権益を有していた。

(津)

みこころ

令和八年 丙午 あけましておめでとうござい

ます。午年は、馬が力強く駆け抜ける姿から物事が大きく発展し、努力が実を結ぶ「躍動感・成功・行動力」を象徴する年だそうです。私は、今年成人式を迎えるので、大人としての自覚と責任を持ち、色々な事に挑戦していく年にしていきたいと思えます▼さて、お正月の食べ物といえば「お節」や「お雑煮」を思い浮かべますね。我が家では、毎年母親が作ったお雑煮を家族皆で戴きます。お正月にお雑煮を食べる風習が根付いたのは、室町時代後期だと言われており、年神様にお供えた餅を食べ、一年間の無病息災を祈念したのが始まりとされています。この「お雑煮文化」は全国的な風習ですが、関東は切餅の醤油仕立て、関西は丸餅の味噌仕立てなど、出汁や餅の形・具材の種類は、地域や家によって様々です。ちなみに福岡では「博多雑煮」と言って、焼きアゴ(トビウオ)でとった出汁に丸餅・大根・椎茸など、またブリやかつお菜が入っているのが特徴です▼お正月は、お雑煮を食べて身体を温めてから初詣にお出かけ下さい。

(早)

第773回

宗像大社歌会詠草

■大西晶子選

■毎月25日メ切(順不同)

校庭に老校長のおごそかな祝辞はつづく明治節です

山崎 公俊

明治節は十一月三日、明治天皇の誕生日だ。戦時中に小学生だった作者かもしれない。しかしこの歌からは戦時色が感じられず祝祭感があるのは結句の「です」の効果だろう。

沖ノ島神にさそわれ十二回初日をあびる洋上の富士

佐藤 守

これまでに十二回沖ノ島に近い洋上で初日を見たという経験を詠んだ歌、毎年の習慣にされていたのだろう。初句「沖ノ島の」結句「島を仰ぎて」とすると分かりやすい。

河下にアセレンの灯さす夜振兄と従兄の釣果は夢か

早川 祥三

思い出のようだが、夜振りは夏の夜に川面で灯をともし集まる魚を網やヤスで捕える漁。長い時が経ち、兄と従弟の釣果を見たのが夢か事実だったのか、臆になったのだ。

水耕で洗浄不要の葉野菜は新鮮で味良く温室ガス減らす

萩原 勉

最近近は農業も以前と変わり、工場で水耕栽培をして作ったレタスやトマトなどが市場に出回るようになった。そのメリットの多さに心を惹かれた作者だろう。

裏庭に残されたバラに薔一個秋の陽浴びてゆるやかに咲く

本田エリナ

寂しい庭の風景だが、それでも秋日に照らされた一輪のバラが健気に咲いている。二句の「残された」ですでに廃園になった庭かと思っただが実際はどうなのだろう。

気がかりをくるみて白き雲よ去れまじり気のない青空残し

吉崎美沙子

作者にはなにか心配なことがあるのだ、その懸念をくるみ持ち去ってくれるような雲があったらいいのという願いの籠った歌。再び青空が作者に戻るように願っている。

子からの朝のあいさつ清々し声すき通る通学之路

東 雅子

気持ちの良い朝の挨拶の歌。作者は通学路に出て登校する子供たちに「おはよう」と声をかけているのかもしれない。子供たちのこたえる声が詠まれて美しい。

ザザザと葉音につられ見あげれば澄みきった空私を包む

堺 玲子

日常生活の中では空を見上げることは案外少ない。見上げたきっかけは木の葉の葉擦れだが、空が作者に呼びかけて包み込んだというメルヘンを思わせる一首だ。

師走には阿蘇の山野を監督で駅伝走を自転車伴走

秋吉 嘉範

学生たちを指導していた作者の壮年期の思い出だろう。語順を変えて「師走には自転車伴走で駅伝の監督したり阿蘇の山野で」とすると意味が滑らかに続く。

沖ノ島大峯山より眺めれば太陽登り新年照らす 秋吉 嘉範

二句の大峯山は福津市の東郷神社がある大峰山だろうか。沖ノ島には新年に一般の人は上陸できないので迷った。初句を「沖ノ島を」とすれば晴れた冬の日に遠くに見える島の初日を見る歌になる。

◆選者詠

小雪ふるさ庭でヒヨとメジロ鳴く言葉不要の感情をこめ

待つ人が居るからそろそろ帰ろうね遊んだ体の冷えないうちに

第743回 俳句

年越しの供餅石鎚駆昇る

早川 祥三

御造宮奉賛者御芳名

(令和七年十一月
順不同・敬称略)

一七、五〇〇円

千代田区

高梨 実

一〇、〇〇〇円

山口市

谷崎 雄一

宇都宮市

Success since 2013

和光市

新坂 登

宗像市

渡辺 忠光

大阪市

藤田 大作

府中市

荒木 克子

五、〇〇〇円

中津市

吉富智津子

宇都宮市

佐藤 禎一

岡崎市

西村 亮

岡崎市

西村 愛美

新宿区

久坂 有史

三、〇〇〇円

萩市

東屋 貴志

犬上郡

小材 巧也

むつ市

小沼 恵之

二、〇〇〇円

白岡市

波吉 弥生

堺市

立原 宜例

逗子市

野崎志津江

2月 まつりごよみ

1日	総社月次祭 引続き 高宮祭、第二宮第三宮祭 宗像護国神社祭	午前11時
3日	節分祭 豆打ち式	午前11時 節分祭終了後
11日	紀元祭	午前11時
15日	総社月次祭 引続き 高宮祭、第二宮第三宮祭	午前11時
17日	祈年祭	午前11時
23日	天長祭	午前11時

編集後記

新年あけましておめでと

うございます▼今年は午年。午は成長や成功・繁栄のシンボルとして縁起が良いとされている。願掛けなどを行う絵馬、これは生きた馬を神社に奉納したのがはじまりとされ、沖ノ島出土の国宝には、馬を裝飾する金銅製品などが数多くあり、古来からの馬との繋がりを感ぜさせる。また、大島には馬蹄石とよばれる石があり、沖ノ島の御祭神である田心姫神が馬に乗って沖ノ島に飛渡った際にできた馬の足跡と言われている▼皇紀二六八六年、皆様方にとりまして、疾走する馬のごとく、飛躍の年になるようにご祈念申し上げます。
(鈴)